

活動報告書

報告者氏名: 鍛冶裕之 所属: 北海道森町立鷲ノ木小学校 記録日: 2022年3月3日

キーワード: 行動調整、学習保障、読み書き指導

【対象児の情報】

・学年

小学3年生の男児

・障害名

注意欠如・多動性障がい(ADHD) 自閉症スペクトラム

・障害と困難の内容

承認欲求が強く、短期的な報酬を得るための試し行動により、学習への意欲を低下させてしまう。そのため、学習の遅れが見られる。とりわけ国語や算数などはわからないことが学習自体への嫌悪感につながっている。学習への逃避行動として、遊びから学習へと自分で行動を切り替えようとしなない姿が見られる。また、集中することで疲れが出て、感情抑制が効かなくなり、学習の妨げになっている。

・使用した機器

Pad iPhone watch chromebook AIスピーカー Pepper

【活動目的】

・当初のねらい

「楽しみながら学習し、他者と関わりたい」という思いに折合いをつけながら、学習に取り組むことができることをねらいとした。そこで、ICT機器を用いて課題を視覚的に把握しやすいようにし、学習後、アプリを使ったトークンによる評価を位置付けることで、達成感や成就感を高めることができた。また、iPadを活用することで、児童の学習意欲がどのように変化するかを観察した。

・実施期間

2021年5月～2022年2月

・実施者

鍛冶 裕之(特別支援学級担任)

・実施者と対象児の関係

特別支援学級の担当教員

【活動内容と対象児(群)の変化】

○対象児(群)の事前の状況

対象児は、担任をはじめ周囲に認められたい思いが強い。そのため、全体で話を聞く場面で大きな声を出したり、友達に話しかけたり、わざと担任から注意を受けたりするような周囲の注意を引く行動をとってしまう。また、学習に対する遅れからストレスがかかり、前向きな行動がとれないことにつながっている。

(学習面)

- ・過去に漢字テストの練習をしたが自分が思うよりも点数がよくなかった経験から、文字を書くことに意味を見出せない。また文字を形で捉えることに困難さがあり、ノートに文字を書く活動を頑なに拒む。
- ・読んで理解することに比べ、聞いて理解することが得意である。物語等の場面を把握し音読を工夫することができる。
- ・一位数同士の計算を暗算で行うことができる。
- ・量や時間についての適切なイメージをもっており、正しく比較することができる。
- ・工作に意欲的に取り組み、身近なものでおもちゃを作ったり、自分なりの遊び方を考えたりすることができる。
- ・音楽に興味・関心があり、リズム遊びに意欲的に取り組むことができる。

(行動面)

- ・学年の枠を越えて友達との関わりを好み、休み時間には、おにごっこなど体を動かす遊びをして楽しく過ごすことができる。
- ・低学年に対して、相手の気持ちを考えながら、優しく接することができる。
- ・遊びのルール、おもちゃの材料や作り方、マイクラフトなど、作業工程を効率よく組み立てて行動することができる。

(コミュニケーション面)

- ・大人への関わりを好み、自分から関わりをもとうとする。
- ・馴染みのない人や場所、活動に、緊張したり、不安をもったりすることなく参加できる。

以上の様相から、対象児には、楽しみながら学習したい気持ちや他者と関わりたいという気持ちがあると察した。

○活動の具体的内容

「楽しみながら学習し、他者と関わりたい」という思いに折り合いをつけながら、学習に取り組み、最後までやり抜くことを目指して、次のアプリを活用した。

(学習面)

『NHK for School : NHK (Japa Broadcastiong Corp.)』

『YouTube : Google LLC』

NHK
for
School



・対象児は、教科書などの文章を読むことを嫌がる。漢字や文節を正しく読むことができず、文章から内容を把握することがストレスになっている。文字を形で捉えることに困難さがあることも起因していると考えられる。そのため、物語など2ページ以上の文章は、一緒に音読をすることで学習を進めてきた。しかしながら、3分以上になると、じっとしていられず、音読することもできなくなった。一方で、動画の視聴を好み、NHK for school や YouTube は 10 分程度なら視聴し続けることができた。そこで、NHK for School や YouTube などを動画を活用して、学習を進めた。

『漢字練習 : Fun&Cool Ventures K.K.』

・対象児は、文字を書くことを嫌がり、書き順など正しく文字を書こうとしない。漢字を書く練習をする際、鉛筆を握って力加減を調整することが苦手なようだ。一方で、毛筆では手本をなぞりながら文字を書くことはできる。そこで、漢字練習アプリは指でなぞることで正答できるため、できたという達成感につながると考え、漢字練習アプリを用いることにした。このアプリを選んだ理由は、1つのアプリで全学年の練習ができること、一画毎に文字の色を変更できるため、対象児が飽きずに学習に取り組めたこと、これまでの学習履歴が対象児にもわかりやすく見えること、いろいろな漢字練習アプリに取組ませて対象児のなぞり書きとの操作性が合っていたためである。



『あんざんマン : HARASHOW Interactive』

『9×9カード : Kouichi INAFUKU』

『トドさんすう : Enuma, Inc.』

『おかね星人 LITALICO Inc.』



・対象児は、10の合成や九九の学習が未習熟である。そのため、3学年の算数の学習内容(くり上がりのある足し算、くり下がりのある引き算、わり算)についていけない。そこで、当該学年の内容を中心に、アプリによる10の合成や分解など、基礎的な計算練習を行った。また、対象児は、見て一瞬でわかるような問題を好むため、直観的に計算練習ができるアプリの問題を選び、集中が続くようにした。対象児には、自分でどのように学習を進め、解決していくかを、教科書だけでなく、複数のアプリも用いて、自分で決められるようにした。

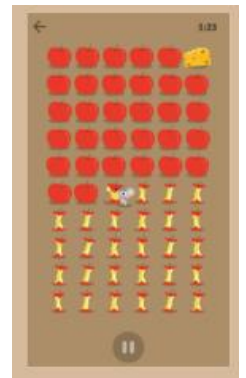
(行動面)

『ねずみタイマー : LITALICO Inc.』

・対象児は、学習を始めること、気を逸らさずに学習を続けること、最後まで学習を終わらせることを苦手としている。そのため、学習へ取り組みやすくするため、トークンを行った。



トークン表を始めて、「プリントが1枚できた」「静かに話を聞いた」「そうじをがんばれた」などできたことを書き出し、共に喜びを共有することができた。しかし、1ヶ月ほど続けていくと、対象児は学習への困難を訴え、取り組むことが難しくなった。原因としては、課題の提示方法が変化したことで、目標が共有されなかったり、活動の目的が明確でなかったりしたことが考えられる。そこで、対象児と課題に取り組むことへの量や時間を話し合い、共有した。特に、時間にこだわりをもち、ストップウォッチや大きな時計、数種類のアプリなどを試した中で、ねずみタイマーを用いることにした。「りんごが減っていくのがわかりやすい」「カチカチと音になるのがいい」と興味を示し、対象児にとって学習の妨げとなることなく適度に楽しみながら活用することができた。



(コミュニケーション面)

『Clips : iTunes K.K.』

・対象児は、書くことに大きな負担を感じているが、話すことは好む。そこで、見学学習のまとめなど、動画編集アプリ(Clips)を用いて、様子や感想などを整理することにした。また、作成した動画を使って友達や保護者へ見てもらう活動を通して、学習を認めてもらう機会とした。



○対象児(群)の事後の変化

iPadを活用して視覚的に課題を把握しやすいようにしたり、トークンを位置付けたりしたことで、対象児は自分が過ごしやすい生活の方法や学びやすい学習の方法を考え、感情のコントロールができるようになり、落ち着いて学習ができるようになった。

(学習面)

・対象児は、動画による学習を進めることで、抵抗感が少なく学習へ取り組めるようになり、学習内容を理解できるようになった。

・YouTubeで興味・関心のあるおもちゃや折り紙の作り方を検索し、ダンボールや木材などを用いて工作した。また、苦手としていたリコーダー演奏にも、動画の真似をすればできると自分から取り組み、難しい曲にも挑戦した。これらの活動を通して、学級の友達だけでなく、異学年の児童からも称賛を受けた。これらの称賛は、対象児がこれまで抱いていた「誰も認めてくれない」「いつも怒られてばかりで、ちっとも思い通りにできない」という思いから起因する自信喪失がこれ以上悪化することを防ぐことにつながったと思われる。現在も、対象児は動画視聴による自分の得意なことを通して、嬉しそうな表情で過ごすことが増えた。ま

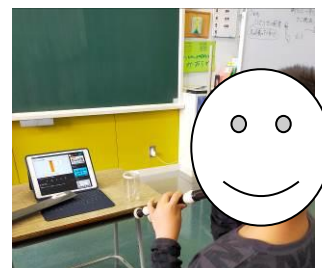


図1: YouTube 視聴の様子

た、ソーシャルスキルトレーニングや動画視聴を行い、どんな行動をすればよいか考えることができるようになった。

- ・漢字練習アプリによる練習を繰り返すことで、鉛筆での漢字練習にも取り組めるようになった。作文などを書く際には、iPadの音声入力によって文字を調べ、それを写して書くようになった。漢字テストにも取り組めるようになった。

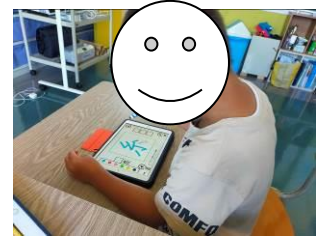


図2:漢字練習アプリの様子

- ・計算練習アプリで一位数同士の加減計算をくり返し練習することで、計算の仕方を理解し、プリントでの計算問題にも取り組むことができるようになった。

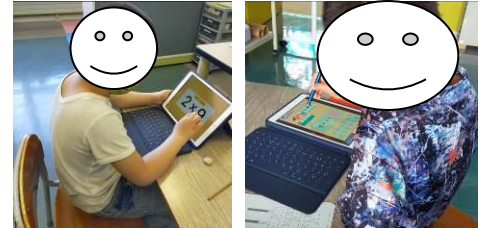


図3:計算練習アプリの様子

(行動面)

- ・対象児は、ねずみタイマーを用いて、学習活動の後に、好きなことが出来るという見通しをもたせることで、納得して自分から行動の切り替えができるようになった。
- ・学習に取り組む際、トークンを行った。また、対象児と話し合い、学習内容への見通しをもたせることで、自分から学習に取り組めるようになった。

(コミュニケーション面)

- ・国語科の「たからものをしょうかいしよう」「じこしょうかいをしよう」、社会科の「わたしたちのまちと市」「はたらく人とわたしたちの暮らし」の単元では、学習した内容を、動画編集アプリを使って、内容の構成を考え、まとめることができた。作成した動画を友達や保護者へ見てもらい、称賛を受けたことにより、対象児は自信をもち、意欲的に学習に取り組むようになった。



図4:まとめ動画作成の様子

【報告者の気付きとエビデンス】

・主観的気付き

>何がうまくいったのか？人に伝えたいエピソードを教えてください。

対象児は、自分で感情が抑制できるようになり、学習に取り組む量や時間が増えた（プリント1枚、学習時間は20分程度）。これまで、児童が学習に向かう時間は2~3分程度で、国語や算数では、すぐに学習内容と関係のない話をしたり、立ち上がったたり、教室を飛び出してしまうことがあった。児童の気分が変わると、わからない、できないことを理由に学習を拒否し訴えてきたが、iPadの複数のアプリを活用し、教員や友達、保護者に学習ができたことを認められ自信がついたこと、勉強を頑張れば、自分の好きなことができるなど学習に見通しをもてるようになったことで、学習に向かう姿勢が身に付いてきた。

>うまくいった理由とICTの役割を教えてください。

タブレット端末を日常的に使うことで、様々な使い方を習得し、自分の思いと学習活動が一致するようになったこと。できること、認められることが増えたことで、見通しをもって学習を進められるようになった。苦手だった漢字の学習では、iPadを使って調べ、書き取る練習をくり返し、書けるようになってきた（図1、2）。計算の練習では、指を使って計算していたが、アプリの10の合成、分解の計算練習をくり返し、指を使わずにできるようになった。3ケタの加減計算は、嫌がらず取り組むようになった。読むことでは、動画を活用することで、集中して聞くことができ、テストなど自分で取り組めるようになった。

>うまくいかなかった事とその理由を教えてください。

YouTubeをずっと見続けて、学習へ向えないことがある。アプリのスクリーンタイムを設定し、事前に約束することで改善できた。

>ICTを使わなかったらどうだったでしょうか？

落ち着いて学習へ向かうことはなく、基礎学力を身に付けることは難しかった。iPadを活用することで、周囲から認められ、ほめられる機会が増え、承認欲求が満たされていったことも要因の一つと考える。

・エビデンス（具体的数値など）

実践前は、一時間に数分程度だった学習時間が、20分程度、一対一で集中して学習できるようになった。テストでは、取り組む際の気持ちによってムラがあり、5月から9月に行った国語のテストでは平均54点、算数のテストでは平均34点であったのに対し、10月から2月に行った国語のテストでは平均60点、算数のテストでは52点となった。

・その他エピソード

対象児にとってiPadを使った学習は、ノートや教科書を用いた学習よりも楽しいこととして捉えられている。そのため、楽しみながら学習するという思いが、達成されたと思われる。

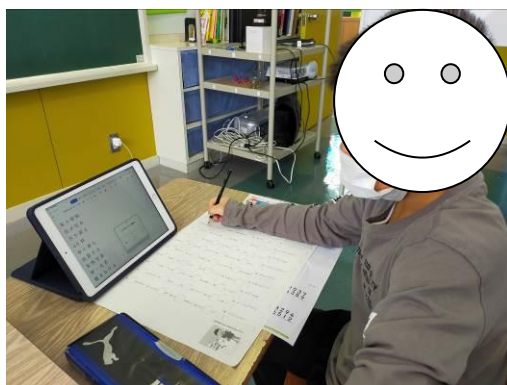


図5：漢字練習の様子

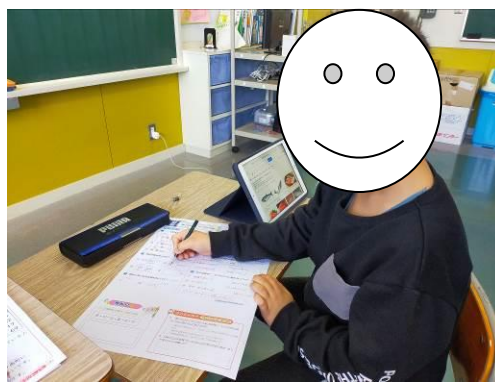


図6：自主学習の様子。読めない言葉など自分で調べて進められるようになった